



サンコール株式会社

〒615-0917
京都市右京区梅津西浦町14
tel.075-881-1415
http://www.suncall.co.jp



実行はアクロイド、
考え方はワールドワイド、

サンコール株式会社は、自動車部品や電子情報部品などの精密機器を扱っています。今回の取材では、精密部品の製造工程において不可欠な薬品による清浄の工夫など、いろいろと学ぶことができました。また、お話をうかがった後には社内を案内していただき、省エネの現場を見せていただくなど、取材は1時間以上におよびました。

約18%のコスト削減に成功

環境方針として、主に廃棄物削減と省エネルギーに取り組み、職場のなかからきれいにしていこうと社長も含む環境マネジメント委員会が中心に活動しています。「構えずぎずに、まずは意識することが大切」と身の回りの紙や文房具の有効利用、節電から始め、そして工場での資源・エネルギー効率化を図るなど小さな事を積み重ねた結果、省エネと廃棄物について2000年には約18%の経費削減に結びつきました（1998年比、総金額）。

作るものに最後まで責任を持つ

廃棄物・有害物質・ダイオキシンの問題など製造業者にとっては避けて通れない問題ですが、同社ではゼロエミッションを最終目標に作ったものは最後まで責任を持つという考えでリサイクルや有害物質の無害化に力を注いでいます。自動車弁ばね用では世界初の砂を使った「鉛レス熱処理ライン」も、そうした考えに基づいて開発されました。また、最近では、自動車部品およ

び電子・情報部品用の素材でもある各種鋼線の表面を洗うためのピッキングライン（鉄を酸で洗うライン）を今年初めにリフレッシュしましたが、この工程で屋根ダクトから出る湯気が、寒いときなどに白くなるので、これが工場周辺の住民の方に不快感を与えてはいけなく（実際には全く問題のない湯気であるが）という配慮から、設備に「白煙防止装置」を特別につけています。

環境を考えることはいいものを作ること

「廃棄物を減らし、不要なものを取り除くことは品質の向上につながるのだから環境と製造は決して無関係なものではない。やはりいいものをつくっていきたくてです。」という頼もしい言葉も個人の環境目標を設定して取り組むなどの積極的な姿勢があるからこそ説得力があります。



第3水曜日の朝8時から1時間ほど社外清掃を実施

取材を終えて...

京都教育大学 小野千春

一部の企業からは「忙しいし、会社の利益にならないから協力できない」といったニュアンスの応対を受け、「ISO認証取得はただ仕事の一部でしかないのか……」とがっかりすると同時に、自分がしていることに自信がなくなったこともありました。しかし、サンコールさんに訪問取材をしてお話をうかがってみて、環境問題に関して、また企業と家庭・行政との関わりについて、企業家としてだけでなく、一個人としても深く考えておられることがよくわかり、「こうでなくては！」と感動させられ



ました。環境活動にしても、会社の中や企業間だけで終わるのではなく、どこかで社会とつながっていかなくてはならないと思います。サンコールさんの“数値化されにくい部分への熱心な取り組み”や、お話の中の「いかに分別するか」「自分の手でする」という言葉が印象深く残っています。このような会社が京都にもっとたくさんできて、もっと自慢できる街になればいいのに、と強く感じました。

[環境データ]

1999年 8月
本社工場においてISO14001
認証取得
2000年 11月
国内全事業所においてISO
14001認証取得

サンコールグループ環境マネジメント組織図



基本理念

地球社会の一員として、公徳優先、人間尊重とベースに技術集約型精密製品の創造をビジネステーマとした事業活動の中で、自然環境の保全に万全を期すとともに、貴重な資源を大切に、地球環境に貢献します。

環境方針

- 電子・情報機器関連部品、自動車製品関連部品、精密機能材料の事業展開において、積極的に環境の保全に取り組みます。
- 環境マネジメントシステムを構築し、技術的・経済的可能な範囲で、断続的な環境改善を行い、汚染の未然防止に努めます。
- 関連する環境法規制及び協定事項等を遵守し、環境保全に取り組みます。
- 環境保全を推進するため環境目的・目標を定め、廃棄物の減量、省エネルギー、省資源に取り組みます。また、環境目的・目標は定期的に見直し、必要に応じて改訂します。
- 地域周辺への環境保全に配慮し、地域から信頼される事業活動を行います。
- この方針は、社外への要請に応じて公開します。